

令和3年度

古文書解読講座（初級）

倉敷市総務課歴史資料整備室

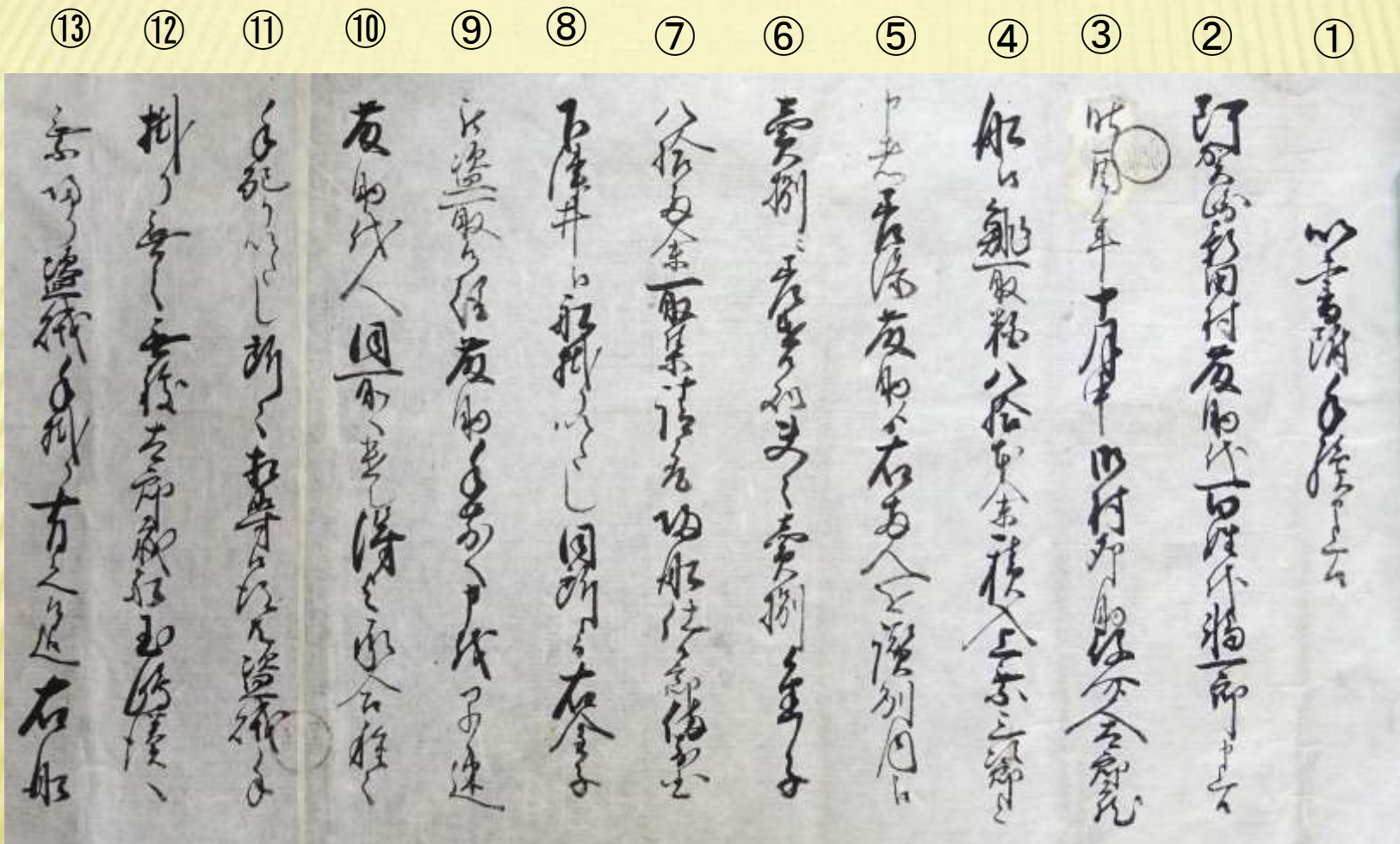
第3回「鯨取粕代金をめぐる争い」

令和3年8月7日（土）

担当：山 本 太 郎

第三回古文書解読講座(初級)予習史料

倉敷市所蔵東大橋家文書(旧備中国窪屋郡倉敷村) 29 | 81 | 10



文久2年(1862)閏8月 阿賀崎新田村百姓代輪一郎から倉敷村村役人へ宛てた文書

第三回古文書解読講座(初級)予習史料

倉敷市所蔵東大橋家文書(旧備中国窪屋郡倉敷村) 29-81-10

⑭

初年より本郡蔵、新儀仕存、任

⑮

南村役場より、其所より、東の金

⑯

金庫より、其の容易事、及、金庫付

⑰

役場、お金より、其の少く、利、信、意、を

⑱

其の金より、本郡蔵、此より、同、人、娘、事、を

⑲

南村、此より、お金、南村、役場、金、其の

⑳

金、南村、少く、利、信、意、を、其の、金、

㉑

本郡蔵、此より、お金、南村、役場、金、其の

㉒

金、南村、少く、利、信、意、を、其の、金、

㉓

本郡蔵、此より、お金、南村、役場、金、其の

㉔

金、南村、少く、利、信、意、を、其の、金、

㉕

金、南村、少く、利、信、意、を、其の、金、

鯨取粕代金をめぐる争い1

以書附手續申上候(倉敷市所蔵東大橋家文書29-81-10)(戌(文久2年)閏8月)

阿賀崎新田村藤助

代理

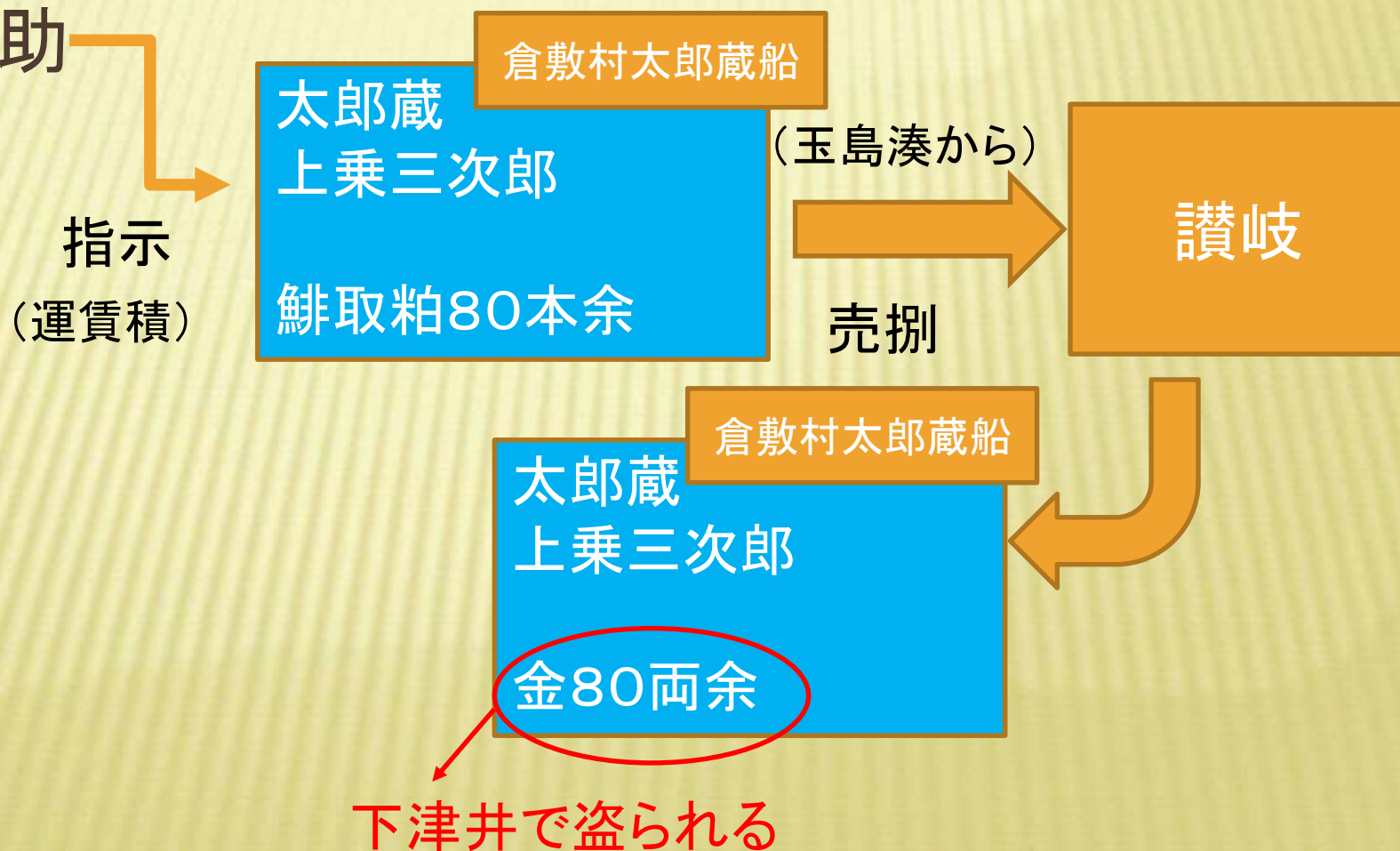
百姓代輪一郎

倉敷村村役人

鯡取粕代金をめぐる争い2

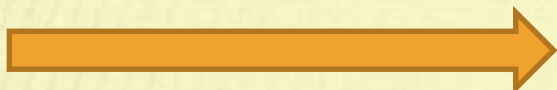
✕ 文久元年(1861)10月

✕ 藤助



鯨取粕代金をめぐる争い3

× 藤助



下津井

尋ねたが盗賊の手
がかりなし



太郎蔵船を玉島湊へ乗り帰り、手
掛かりがあるまで太郎蔵船を預か
った。

第三回古文書解読講座演習史料 1

倉敷市所蔵東大橋家文書（旧備中国窪屋郡倉敷村）29―81―10

①

南云方左衛門成小郎半右衛門

②

清和寺と若人金太及取留と金

③

内々永島と子孫史公の隣村

④

松崎村文蔵と若人おね政次

①

②

③

④



第三回古文書解読講座演習史料3

倉敷市所蔵東大橋家文書(旧備中国窪屋郡倉敷村) 29-81-10

⑩

水戸村より人へ宛てての書状

⑪

水戸村より人へ宛てての書状

⑫

水戸村より人へ宛てての書状

⑬

水戸村より人へ宛てての書状

⑭

水戸村より人へ宛てての書状

⑮

水戸村より人へ宛てての書状

⑩

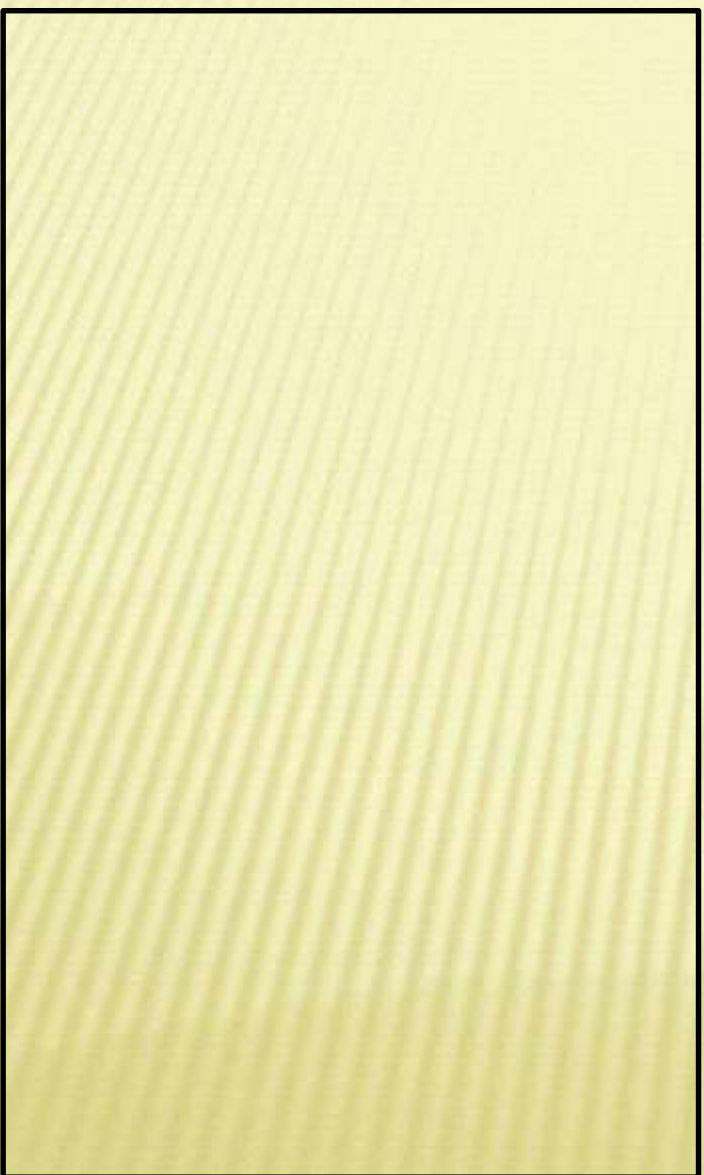
⑪

⑫

⑬

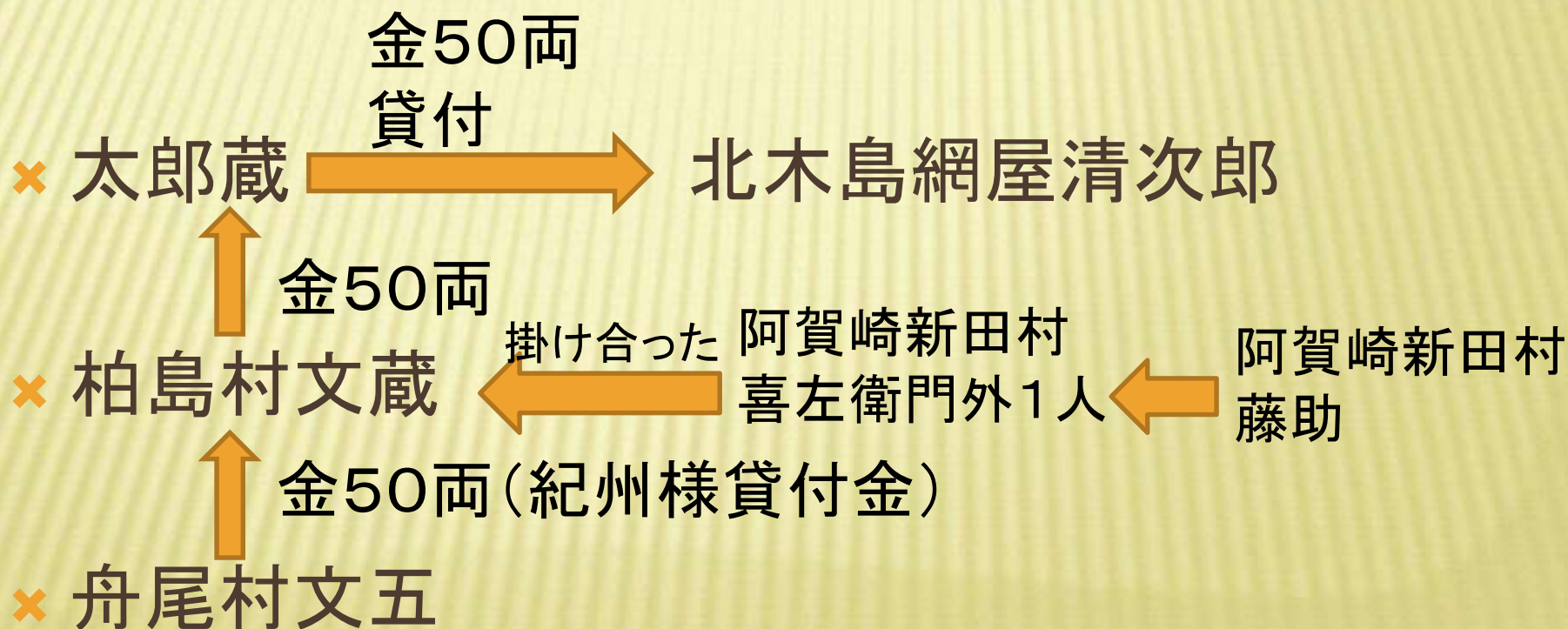
⑭

⑮



鯨取粕代金をめぐる争い4

× 文久2年春



鯨取粕代金をめぐる争い5

尋ねた

× 舟尾村文五 ← 喜左衛門外1人

× 太郎蔵 ← 金子取次のことを尋ねた

↑ 倉敷から舟尾へ

鯡取粕代金をめぐる争い6 経緯

文久元年10月2日、倉敷村太郎蔵船が、阿賀崎新田村井出屋藤助の鯡取粕を運賃積し、上乘三次郎が付添い玉島湊を出船。(A)



文久元年10月20日、下津井湊で鯡取粕代金が盗られる。(A)



藤助が太郎蔵の船を差し押さえる。(A)



文久元年11月、藤助代人の百姓代輪一郎が倉敷村役場へ掛け合い、太郎蔵が答弁書提出。(B)

鯨取粕代金をめぐる争い 経緯

文久2年8月，太郎蔵が阿賀崎新田村庄屋へ，藤助を取調べのうえ船を返すようお願い出る。(B)

文久2年閏8月，輪一郎が倉敷村役人へ，太郎蔵を取調べよう願い出る。(C)

文久2年11月，太郎蔵が倉敷代官役所へ，藤助を取調べのうえ船と道具を返すようお願い出る。(A)

文久2年12月，太郎蔵が倉敷代官役所へ，網屋清次郎へ貸した金について答弁。(A)

文久3年7月，藤助は太郎蔵へ船と道具を返すが，盗賊の手掛かりがあるまで弥助が藤助方で奉公する給金と太郎蔵が藤助荷を運賃積する代銀で紛失金を償うことにする。(D)

鯨取粕代金をめぐる争い8 経緯

- ✕ (A)大橋紀寛家文書Ⅱ－1－A－22「文久二年壬戌正月吉日 御用書類留」
- ✕ (B)東大橋家文書29－81－9「以書付御願申上候」
- ✕ (C)東大橋家文書29－81－10「以書附手續申上候」
- ✕ (D)東大橋家文書29－82－9〔藤助紛失金補償規定書〕